

基本情報

学校

御杖村立御杖小学校
御杖村立御杖中学校

学校運営協議会

御杖村学校運営協議会

令和2年4月1日 設置

委員構成

学校協働実行委員会委員長
地域コーディネーター
保護者・PTA関係者
地域住民
教員経験者
学校管理職
教育委員会事務局員
など 14名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働推進員0名(0名)

地域コーディネーター 1名(1名)

地域学校協働本部

御杖村学校協働実行委員会

背景・取組概要

本村の児童・生徒は中学校卒業時の進路選択で、村を離れるケースが非常に多く、小・中学校とも「総合的な学習の時間」を基軸に「ふるさと」をテーマに学習を進めることを通じて、児童・生徒の御杖村を愛する心を育み、アイデンティティの形成を学校目標のひとつとして取り組んできた。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・学校運営協議会以外にも委員の来校が複数回あり、諸行事に臨む児童・生徒の1年間のあゆみや生活を見守る体制が構築されている。
- ・学校の総括的行事である「学習発表会」を柱に据えた学校運営への協議が実施できる。

◆地域学校協働活動

- ・前身である「御杖村学校支援実行委員会」からの積み上げで、学校支援ボランティアの活動に学校への理解と厚みがある。
- ・広報「みつえ」における年2回の活動報告により、村内周知を行っている。

◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・学校運営協議会の会長と学校協働実行委員会の委員長が同一であることに加え、地域コーディネーターも双方に参加しているため、円滑な協議運営体制を取ることができ、学校の教育課題や教育方針を理解し、活動に反映している。
- ・地域コーディネーターが常勤として事務局に位置付き、学校及び地域の現状に沿い、密に両者をつなぐ役割をしている。



成果・効果

◆児童・生徒

- ・地域の方々との関わりの中で多くの体験を通して、考えや思いを表現できる力が身についた。
- ・自分たちの「ふるさと」について地域の方々と交流を深めながら、主体的・能動的な学びを実践できた。
- ・「ふるさと」の新たな発見、学習意欲の向上、「ふるさと」を大切にしたいという意識を醸成でき、自分たちの地域やふるさとについてのアイデンティティの確立に迫ることができた。

◆地域・学校支援ボランティア

- ・学習に関わった地域住民（学校支援ボランティア）の生きがいにつながっている。
- ・学校教育への理解の深化や今後の継続的な支援につながる声が寄せられた。
- ・自ら新たな企画や活動内容の提案など、地域発信の自主的な活動が展開できた。